

# ヨエル書とラオデキアのセブンスデー・アドベンチスト教会 - 第27号

Jeff Pippenger

2026-01-14

## 二十七番

私たちは、ユダの部族の獅子が今まさに封印を解いておられる真理を記録している。私たちは、ヨエルのメッセージに取り組むために真理を整えているが、そのメッセージは、ペテロが『使徒行伝』において「後の雨」のメッセージであると位置づけたものである。私たちは、今まさに成就しつつある真理を、試みとなる真理の封印が解かれるときに常に現れる二つの階級に最終的な分離をもたらす真理として取り扱っている。さらに、まさにこの同じ封印が解かれた真理を、分離を行う第三天使の言葉であるだけでなく、十四万四千人の封印を成し遂げる言葉としても取り扱っている。第三天使は、ふるい分けも清めも行う。

2023年7月以来、ユダ族の獅子は、神の残りの民の歴史における外的線と内的線に関連する真理の封印を次第に解いてきた。私たちは今、ペテロの役割を理解するためにマタイによる福音書を開いている。ペテロは、キリストが岩の上に建てる教会—すなわちご自身の花嫁—と結ぶ契約関係の象徴である。ペテロは最初の、そしてまた最後のキリストの花嫁を表している。マタイによる福音書11章と22章の、それぞれの章のちょうど真ん中の節で、ペテロはまさにその象徴として示されており、そしてそれらの章は、創世記と黙示録の11章から22章にかけての並行する線における中間の章である。ペテロは終わりの日の十四万四千人を表しており、その箇所では彼はカイサリア・ピリピにいる。そこはダニエル書11章13-15節のパニウムである。

ペテロはパニウムにおり、また、ペンテコステの日には第三時に二階の部屋にいて、さらに第九時には神殿にいた。その六時間は、日曜法の到来に至るまでに十四万四千人が封印される期間を表している。キリストの十字架刑も第三時に始まり、第九時に彼は息を引き取った。それが復活へとつながり、ペンテコステの季節が始まり、その季節は、第三時と第九時におけるペテロのペンテコステで終わった。摂理が異邦人に福音を送ったとき、コルネリウスは第九時にペテロを呼び寄せた。第三時は朝のささげ物を、また第九時は夕のささげ物をも表していた。

その6時間の期間は、エクセターのキャンプ集会の時期と、1844年10月22日の大失望によって象徴されていた。使徒行伝では、第一章の終わりに、ユダの代わりにマティアが選ばれるとき、ペテロは十四万四千を構成する他の者たちと一致する者として描かれている。こうして数が揃う。物語には明確な進行が示されている。

ピーターは最初に二階の部屋におり、その後には神殿にいる。彼が二階の部屋にいるときは第三時で、神殿では第九時である。第三時の発表によって、三千の魂が洗礼を受けることになった。

そこで、彼の言葉を喜んで受け入れた者たちはバプテスマを受け、その日だけで約三千人が彼らに加えられた。使徒の働き 2:41

第一章の末尾における人数の数え上げから、第九時の神殿に至るまでの期間は、十四万四千人が封印されることを表している。

十四万四千人は信仰による義認のメッセージを宣べ伝えるが、それはまさに第三天使のメッセージである。義認とは、ホワイト姉妹が的確に述べているように、人の栄光を塵に伏させる神の御業である。

信仰による義認とは何ですか。それは、人間の栄光を塵に伏させ、人が自分の力では自分のために成しえないことを、神が人のために行われるわざです。人々が自分の無価値さを知るとき、キリストの義を着せられる備えが整います。一日中神を賛美し、あがめることを始めるとき、仰ぎ見ることによって、同じかたちへと変えられていきます。新生とは何ですか。それは、人に自分の本来の性質が何であるか、すなわち自分自身には価値がないことを明らかにすることです。あなたはこれらの教訓をまだ学んでいません。ああ、あなたが人間の魂の価値を悟ることができるならばよいのに。

Manuscript Releases, 第20巻, 117.

十四万四千人が示す義認のメッセージの一例は、契約の人であるギデオンである。というのも、彼の名はエルバアルに変えられたからである。ギデオンのメッセージは、火のついたたいまつを土の器の中に入れ、それから器を打ち砕き、ラッパを吹き、「主の剣、ギデオンの剣だ」と叫ぶ、という行為から成っていた。ギデオンの剣はまた主の剣でもあった。というのは、剣とは神のことばであり、それは神性と人性の結合だからである。そのメッセージは、彼が器を打ち砕くときのラッパと叫びによって表された。その器は人間を表しており、それは砕かれ、あるいは塵にまでへりくだらされなければならない。そうしてこそ、神の光の栄光が輝き出る。

そのメッセージを告げる前に、ギデオンは試しの過程を経て三百人の男たちを集めた。その過程が終わると、ギデオンのもとには三百人がいた。三百は、ペンテコステの三千人の十分の一に当たる。彼らは、エゼキエル書37章で起こされ、永遠の契約に入る軍勢を表している。

そこで私は彼が命じたとおりに預言した。すると息が彼らに入り、彼らは生き返り、自分の足で立ち上がった。非常に大きな軍勢であった。それから彼は私に言われた。「人の子よ、この骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らはこう言っている。『私たちの骨は干からび、私たちの望みは失われ、私たちは断ち切られてしまった。』」  
エゼキエル書 37:10、11.

イスラエルの家はその部分ごとに断ち切られており、エゼキエルは、切り離されていたユダとエフライムの部分がどのように一つの国となるのかを示そうとしている。その軍勢は、これまで離れていた二本の棒から成り立っているが、彼らが神と契約を結ぶとき、一つの棒に結び合わされる。

さらに、わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。それは彼らとの永遠の契約となる。わたしは彼らを住ませ、彼らを増やし、わたしの聖所をとこしえに彼らのただ中に置く。

わたしの幕屋もまた彼らと共にあり、まことに、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。わたしの聖所がとこしえに彼らのただ中にあるとき、諸国の民は、主であるわたしがイスラエルを聖別することを知る。エゼキエル書 37:26-28

主がその聖所を彼らのただ中に置かれるとき、異邦人は主がイスラエルを聖別しておられることを知る。神の聖所が神の民に結び合わされることは、人間の神殿と神の神殿が結び合わされることを表しており、それが起こるとき、神に忠実な三百人は封印され、世界は日曜法危機のさなかに聖別された民を見ることによってのみ警告を受けることができる。

聖霊の働きは、世に罪と義と裁きとを悟らせることである。世が警告を受けることができるのは、真理を信じる者たちが真理によって聖められ、崇高で聖なる原則に従って行動し、神の戒めを守る者とそれを足で踏みこむ者との間の境界線を、高尚な意味において示しているのを見ることによってのみである。聖霊による聖化は、神の印を持つ者と、偽りの安息日を守る者との違いを明確にする。試練が来るとき、獣の刻印が何であるかがはっきり示される。それは日曜日を守ることである。真理を聞いた後でもなおこの日を聖なるものと見なし守り続ける者は、時と律法を変えようと考えた罪の人の印を帯びている。聖書訓練学校、1903年12月1日。

教会が戦う教会から凱旋の教会へと移行するとき、神の聖所は神の教会に結び合わされる。エゼキエルが言及する契約は、一つの国を成す二本の棒の結合と関連して示されている。

彼らに言え。「神である主はこう仰せられる。見よ、わたしはエフライムの手にあるヨセフの木片と、その仲間であるイスラエルの諸部族を取り、それをユダの木片とともに合わせて一つの木片とし、わたしの手のうちで一つとなる。あなたが書き記すそれらの木片は、彼らの目の前であなたの手のうちにあるであろう。そして彼らに言え、」

神である主はこう仰せられる。見よ、わたしは、彼らが行ってしまった諸国民の中からイスラエルの子らを取り、四方から彼らを集め、彼ら自身の地へ連れて行く。わたしはイスラエルの山々にあるその地で、彼らを一つの国とし、一人の王が彼らすべてを治めるようにする。彼らはもはや二つの国とはならず、もはや決して二つの王国に分かれることもない。彼らはもはや自分たちの偶像によっても、忌むべきものによっても、あらゆる背きによっても、自らを汚すことはない。むしろ、わたしは彼らが罪を犯したすべての住まいから彼らを救い出し、彼らを清める。こうして彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。エゼキエル書 37:19-23。

エフライムの杖とユダの杖とは、エフライムとユダに対して与えられた二つの2520年にわたる離散を指し、それぞれ1798年と1844年10月22日に終結した。1844年10月22日、ご自身の民、すなわちご自身の聖所をきよめる御業が始まったとき、彼らは現代の霊的イスラエルという一つの国民となった。その歴史は、日曜法において契約の使者が突然ご自身の宮に来て、その使者によって十四万四千人が取り除かれ、清められる（潔められる）という歴史を表象している。その浄化が日曜法に先立って成就するとき、勝利の教会には彼らの上に王が置かれる。その王はダビデであり、彼は三十歳で治世を始めた。それは、マタイ第1章でアブラハムから数えて十四代目とされている同じダビデである。これは、

日曜法におけるダビデの第三の証しを示している。二本の杖から興される力強い軍勢は、教会が毒麦を取り除かれるとき、王ダビデに率えられる。

また、わがしもべダビデが彼らの上に王となり、彼らはみな一人の牧者を持つ。彼らはわたしのおきてに歩み、わたしの定めを守り、それを行う。彼らは、あなたがたの先祖が住んだ、わがしもべヤコブに与えた地に住む。彼らはそこに、彼ら自身も、その子らも、その子らの子らも、とこしえに住む。わがしもべダビデは、とこしえに彼らの君となる。エゼキエル書 37:24、25。

その軍隊は第一ペテロ2章の祭司たちでもあり、彼らは務めを始めるとき三十歳である。

あなたがたも、生ける石のように、霊的な家に建て上げられ、聖なる祭司として、イエス・キリストによって神に受け入れられる霊的ないけにえをささげるためである。第一ペテロ 2:5。

その祭司たちはまた、出版された1843年の図表三百枚を携え、それらの図表を用いて自分たちの世代にそのメッセージを伝えた三百人のミラー派の説教者によっても象徴されていた。

この件についていくらか議論した後、このようなものを三百枚石版印刷することが満場一致で可決され、ほどなく実行された。これらは「43年の図表」と呼ばれた。これは非常に重要な会議であった。ジョセフ・ベイツ『自伝』、263頁。

「私たちの歴史が示すところでは、ウィリアム・ミラーが用いていたのと同じ年代表をもとに教えていた者が、皆同じ系統の者として何百人もいた。そのとき、メッセージは一つであり、主題も一つ、すなわち主イエスがある特定の時、1844年に来られるということだった。」ジョセフ・ベイツ『初期SDAパンフレット』17頁。

ミラー派の説教者三百人は、第一の天使の歴史の間にその働きを果たした。靈感は、第一の天使が第三の天使の型であることを教えている。彼らはジョセフ・ベイツによれば「皆同じ型であった」。ギデオンは、自分がしたとおりにするよう三百人の軍勢に命じる。ギデオンの三百人の軍勢に型どられているミラー派の説教者三百人は、第一の天使のメッセージが力を受け、試練が始まる9/11において整列することになる。

そのとき、エルバアル、すなわちギデオンは、彼と共にいるすべての民と共に朝早く起きて、ハロデの泉のかたわらに宿営した。ミディアン人の軍勢は、彼らの北側、モレの丘の近くの谷に陣取っていた。主はギデオンに言われた。「あなたと共にいる民は多すぎる。このままわたしがミディアンを彼らの手に渡すと、イスラエルは『自分の手で救った』と言って、わたしに逆らって誇るであろう。だから今、民の耳にこう告げよ。『恐れておののく者はだれでも、ギレアデの山から引き返して帰れ。』」そこで民のうち二万二千人が帰り、残ったのは一万人であった。主はさらにギデオンに言われた。「民はまだ多すぎる。彼らを水のほとりへ連れて下れ。そこでわたしはあなたのために彼らを試す。わたしがあなたに、『この者はあなたと共にいけ』と言う者はあなたと共に行き、『この者はあなたと共に行ってはならない』と言う者は行ってはならない。」

そこで彼は民を水のところへ連れて下った.すると主はギデオンに言われた.「犬がなめるように、舌で水をなめる者は皆、別にしておけ.ひざまずいて飲む者も同じように分けておけ.」手を口に当てて水をなめた者の数は三百人であった.しかし残りの民はみな、ひざまずいて水を飲んだ.士師記 7:1-6.

ギデオンの名はエルバアルに改められ、それは「バアルと争う者」という意味である.ギデオンは「木を倒す者」を意味し、バプテスマのヨハネは斧を木の根元に置いた.ヨハネは第一の天使の使者であるウィリアム・ミラーを象徴しており、そこにギデオンが当てはまる.三天使の歴史において、ギデオンはミラー、すなわちアルファのエリヤである.

ミディアン人は北の敵で、彼らはモレの丘のそばに陣を張り、ギデオンはハロデの泉、すなわち恐れと戦慄を意味する場所のそばにいた.9/11はテロリズムをもたらし、最初のメッセージは神を恐れよという呼びかけである.ギデオンは9/11、すなわちハロデの泉（テロ）におり、北の敵はモレの丘（前の雨を意味する）のそばの谷にいる.9/11に、モレの丘から後の雨の滴り、すなわち前の雨が降り始めた.二度の試みのうち最初のものの後、二万二千人がギレアデの山から家に帰された.ギレアデは道しるべを意味し、二万二千人が家に帰されたその道しるべは、1844年4月19日または2020年7月18日の第一の失望である.二十二は第一の失望の道しるべを示す.それは、1844年10月22日に大失望が到来したその日付を二十二が示しているのと同様である.

次の試験は水の試験であり、ミラー派の歴史ではエクセターのキャンプ集会によって示されている.そこでは水に関わる二張りの天幕があり、それによって二つの類の礼拝者が表された.エクセターは「水の上の要塞」を意味し、もう一方の天幕にはウォータウンから来た愚かな乙女たちがいた.エクセターはギデオンの水の試練を表しているが、肝心なのは水そのものではなく、水を飲むために用いられた方法であった.一方の人々は水をすくって飲みながら進み続けるにはあまりにも疲れており、もう一方の人々は前へ進み続けた.一方は疲れた側であり、旅上手なラケルとは対照的にレアに代表される.

Future for Americaのミニストリーは、二つの試験のうち最初のものがギデオンの隊から大勢をふるい落とすことになる9/11において、ギデオンに当たった.9/11のテロは、恐れと戦慄のハロデの泉を指し示し、モレの丘は後の雨の始まりを指し示す.2020年7月18日、二万二千人が去って分離が起こり、こうして二十二という数によって遅延の時の到来が印された.ギデオンの三百人とは第二の試験に合格する者たちであり、その試験とは、イザヤ書二十八章に示されている後の雨の方法論の試験である.

ペテロは、ペンテコステと同様にパニウムにもいます.ペンテコステは日曜法であり、ダニエル書11章16節もまた日曜法です.ダニエル書11章13~15節はパニウムであり、これらの節は日曜法へと至る外的な預言史を表しています.また、使徒の働きに記されている第三時と第九時におけるペテロは、日曜法へと至る内的な預言史を表しています.外的な流れは獣の刻印へと至る歴史を特定しており、内的な流れは十四万四千人の封印の歴史を特定しています.現在、成就の途上にある外的・内的歴史の双方においてペテロがこれほど重要な象徴となっているので、聖書の表面的な読みの下に潜む預言的文脈にペテロを位置づけるのが適切に思われました.

マタイの福音書で成就したと記されている十二のメシア的預言は、十四万四千人の歴史を表している。「終わりの時」は改革運動の始まりを画し、モーセの系統、すなわちキリストのアルファにおいてアロンとモーセの誕生が「終わりの時」を画したように、ヨハネとそのいとこイエスの誕生もまた、1989年に「終わりの時」を画した。十二のメシア的預言を考察することが価値あるかどうかは、別の問いを立てて文脈に置いて考えると、さらに興味深い。マタイに見られるほど多くのメシア的成就を記している聖書の書は、他にどれであろうか。

地上における神の働きは、時代から時代へと、あらゆる大改革や宗教運動において顕著な類似を示している。神が人を取り扱われる原則は、いつの時代も同じである。現代の重要な運動には過去のそれに対応するものがあり、昔の時代における教会の経験は、私たちの時代にとって大いに価値ある教訓を含んでいる。『大いなる争い』343頁。

すべての改革運動には出発点があり、ダニエル書ではそれが「終わりの時」と呼ばれている。キリストの改革運動における「終わりの時」はキリストの誕生であり、それは1798年と1989年の双方を象徴していた。

### 第一のメシア的な道しるべ-1989年

彼らは彼に言った。「ユダヤのベツレヘムです。なぜなら、預言者によってこう書かれているからです。『ユダの地にあるベツレヘムよ、あなたはユダの支配者たちの中で最も小さいものではない。あなたから、わたしの民イスラエルを治める統治者が出るからである。』」マタイによる福音書 2:5、6。

### 予測

しかし、ベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの幾千の氏族の中で小さい者であっても、あなたから、わたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出どころは昔から、永遠の昔からである。ミカ書 5章2節

1989年は、第三の天使の運動における終わりの時であった。それは1863年の反逆から126年後に到来し、ロナルド・レーガンとジョージ・ブッシュ（父）によって象徴された。モーセの歴史における終わりの時はアロンとモーセの誕生であり、キリストの歴史における終わりの時も同様に、バプテスマのヨハネとキリストの誕生であった。ダニエル書が封印を解かれると（1989年にそうであったように）、知識が増える。その知識の増加は第二の道標へと導き、封印が解かれて得られた知識から人々を試すメッセージが形成される時がいつであるかを明らかにする。

あらゆる改革運動には、メッセージが定式化され、以後それが人々を試すメッセージとなる時点がある。キリストは、人々にその試しの責任を問う前に、必ずその試しを説明される。アダムとエバは、不従順ならどのような結果になるかを前もって告げられていた。神は決して変わらない。

主なる神はその人に命じて言われた、「園のどの木からでも、あなたは自由に食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは食べてはならない。あなたがそれを食べるその日には、必ず死ぬからである。」創世記 2:16、17。

ウィリアム・ミラーは1831年から1833年にかけて、第一の天使の試金石となるメッセージを公式化した。十四万四千人のメッセージは、1989年に封印が解かれたダニエル書11章の最後の6節を扱う『Time of the End』誌の刊行とともに、1996年に公式化された。その年には『Prophetic Time Lines』と題する刊行物も出版され、ウィリアム・ミラーが採用した規則の22倍も強力な方法論が提示された。ウィリアム・ミラーが採用したこれらの規則は、現在『Prophetic Keys』という刊行物に示されている。第三の天使のメッセージを宣べ伝えるすべての者が用いる規則は、ミラーの規則である。

第三天使のメッセージを宣べ伝える働きに従事している人々は、ミラー師が採用したのと同じ方法で聖書を研究している。レビュー・アンド・ヘラルド誌、1884年11月25日。

ミラーの規則はアルファであり、預言の鍵はオメガである。預言的な試験のメッセージに合格する唯一の方法は、神の御言葉に示された学びの方法論を用いることである。真のメッセージは、そのメッセージを確立する真の方法論から切り離すことはできない。あらゆる改革運動において、その世代のための試験のメッセージが掲げられ、その道標の一要素として正しい方法論が含まれている。ミラーのメッセージはダニエル書の封印が解かれたことに基づいていた。彼のメッセージはギデオンのメッセージでもあった。というのも、それはまた三百人の軍勢を生み出したからである。

彼は三百人を三つの隊に分け、すべての者の手にラッパを持たせ、空のかめを持たせ、そのかめの中にたいまつを入れさせた。彼は彼らに言った、「私を見よ、同じようにせよ。見よ、私が陣営の外側に来たなら、私のするように、あなたがたもそうなさい。私と私と共にいる者がラッパを吹いたなら、あなたがたもまた、全陣営の四方でラッパを吹き、『主の剣、そしてギデオンの剣だ』と言え。」士師記 7:16-18。

ミラーのメッセージは「ラッパ」であり、「剣」であった。しかもそれはギデオンの剣であり、同時に主の剣でもあった。主の御言葉は1611年に刊行され、220年後にミラーは第一の天使のメッセージを発表した。独立宣言は1776年に発表され、220年後の1996年に第三の天使のメッセージが発表された。ミラーのメッセージは、ウライ川の幻に象徴される、神の民のための第一の天使の内的メッセージであり、裁きの開始を告げるものであった。フューチャー・フォー・アメリカの第三の天使のメッセージは、ヒデケル川の幻に象徴される、神の民のための外的メッセージであり、裁きの終結を告げ知らせるものである。

預言的な方法論は、マタイがキリストによって成就したと認めたメシア的預言の一つによって表されている。その際、1831年が型として示され、「父」は1996年において自分の子を表している。方法論の二人の証人はアルファとオメガであり、人間の使者の関与と相まって、共に父と子の関係を確立する。これはマラキのエリヤのメッセージにおける関係である。父の心は子どもたちに向けられ、子どもたちの心も父に向けられる。ミラーのルールは「預言の鍵」と題されたルールと結び合わされるべきである。新しい光は古い光の上に築かれなければならない。1831年と1996年の方法論を用いないことを選ぶ者は呪われる。一方は呪われ、もう一方は祝福される。選ぶのはあなた次第だ。

## 第二のメシア的な道標 -1996

それは、預言者によって語られた次の言葉が成就するためである。「わたしはたとえで口を開き、世の初めから隠されていた事柄を語る。」マタイによる福音書 13章35節。

### 予測

私はたとえをもって口を開き、いにしえの謎めいたことばを語ろう。詩編 78:2

「難解な言葉」、すなわちユダ族の獅子が「発する」たとえ話は、世の初めから封じられ、秘められてきた真理を、一つひとつ積み重ねるように提示するものである。メッセージが確立されると、その後それは、試練の時の始まりを告げる預言の成就によって力を帯びる。

2001年9月11日に後の雨がぱらつき始めたとき、1888年の反逆とコラの反逆が繰り返された。1888年のミネアポリスでの反逆でも、またコラの反逆でも、神が選んだ使者たちは、彼らが携えてきたメッセージとともに退けられた。赤ん坊と風呂の水の両方が一緒に投げ捨てられたのである。会衆全体が神が選んだ者たちと同じほど聖いという前提のもとで、使者もメッセージも投げ捨てられた。反逆者たちは、人間の使者たちのうちに神性を見ることができなかった。彼らに見えていたのは自分たち、すなわち神性を欠いた人間性だけで、だから誰もが同じだと思った。

さて、レビの子ケハトの子イツハルの子であるコラと、エリアブの子らであるダタンとアビラム、またペレトの子であるオン、すなわちルベンの子らが、人々を引き連れ、彼らは、イスラエルの子らのうちから、会衆の指導者で、会衆の中で名高い者たち二百五十人をも伴って、モーセに対して立ち上がった。彼らはモーセとアロンに逆らって集まり、彼らに言った。「あなたがたは行き過ぎだ。会衆は皆、一人ひとりが聖で、主が彼らのただ中におられる。それなのに、なぜあなたがたは主の会衆の上に自らを高めるのか。」民数記 16:1-3

コラの反逆、1888年、そして9/11は、神が選び定めた指導体制に服従することを拒み、一方で神の会衆に関する誤った定義に信頼を置くこととして表される。反逆者たちが「主の宮、主の宮はこれらだ」と主張したとき、エレミヤは同じ現象を指摘している。

主の言葉がエレミヤに臨み、こう言われた。

主の家の門に立ち、そこでこの言葉を宣べて言え。「主を礼拝するためにこれらの門から入るユダのすべての者よ、主の言葉を聞け。万軍の主、イスラエルの神はこう言われる。あなたがたの道と行いを改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたをこの所に住まわせよう。『主の宮だ、主の宮だ、主の宮だ』と言う偽りの言葉を頼みにしてはならない。」

もしあなたがたが自分の道と行いを徹底して改め、人とその隣人との間を徹底して公正に裁き、在留異国人と孤児とやもめを虐げず、この所で無実の血を流さず、自分の害となるように他の神々に従って歩まないなら、そのとき、わたしはあなたがたをこの所、あなたがたの先祖に与えた地に、とこしえに住まわせる。

見よ、あなたがたは益にならない偽りの言葉に頼っている。エレミヤ書 7:1-8.

エレミヤの時代のユダヤ人の偽りの言葉は、コラとその一味、1888年の反逆者たち、そしてもちろん9/11の反逆者たちの偽りの言葉でもある。それは、イザヤ書二十八章でエフライムの酔いどれどもがその下に身を隠す偽りである。

それゆえ、エルサレムにいるこの民を治める嘲る者たちよ、主の言葉を聞け。あなたがたがこう言ったからだ。「われわれは死と契約を結び、陰府と協定した。押し寄せる懲罰が通り過ぎるとき、それはわれわれには及ばない。われわれは偽りを避け所とし、虚偽のもとに身を隠したからだ。」イザヤ書28章14、15節

それはまた、真理への愛の欠如を表す偽りであり、テサロニケ人への第二の手紙に記された強い惑わしをもたらすものである。

このために、神は彼らに強い惑わしを送り、彼らが偽りを信じるようにされる。真理を信じず、不義を喜んだすべての者が裁かれるためである。テサロニケ人への第二の手紙 2章11、12節

「偽りの言葉」とは、救いは教会にこそあるのであって、神に選ばれた使者とその選ばれたメッセージにあるのではない、という愚かな考えを表している。神と人との結びつきは、ただ御言葉を通してのみ成し遂げられ、保たれる。主こそ御言葉であり、御言葉によらなければだれも御父のみもとに来ることはできない。キリストは、ご自身が選んだ使者と彼らが伝えるメッセージによって表される。それ以外を信じることは、真理を憎み、偽りを信じることにほかならない。エレミヤは、約束の地に入って以来神の箱がとどまっていたシロを思い起こさせることによって、神殿に信頼を置くユダヤ人を非難している。

それゆえ、わたしは、わたしの名によって呼ばれていて、あなたがたが頼みとしているこの家に対して、また、あなたがたとあなたがたの先祖に与えたこの所に対しても、シロにしたとおりに行う。そして、わたしは、あなたがたをわたしの前から追い出す。わたしが、あなたがたの同胞、すなわちエフライムのすべての子孫を追い出したように。だから、この民のために祈ってはならない。彼らのために叫びも祈りもささげてはならない。わたしにとりなしをしてはならない。わたしはあなたの声を聞かないからである。エレミヤ書 7:14-16.

邪悪なエリと、その邪悪な二人の息子ホフニとフィネアスは、猶予期間が閉じられるまで背教がエスカレートするのを許したこと、そして三人が同じ日に死んだことにおいて、コラ、ダタン、アビラムに対応し一致している。彼らは皆、日曜法のときに死ぬのだ！

9/11において、コラの反逆、エリの反逆、エレミヤの証言におけるユダヤ人の反逆、そして1888年の反逆者たちが、その時代のメッセージと使者を退け、反逆する。その期間は二つの試練を経て日曜法で終結する。第一の試練は9/11から2020年7月18日までであり、第二の試練は真夜中の叫びのメッセージによって表される清めと封印である。その清めの過程から、ギデオンとその三百人はラッパを吹く備えが整えられ、彼らは日曜法においてサムエルが立てられるとき、すなわちペリシテ人によって契約の箱が奪われるときに、それを行う。すると、勝利した教会が旗印として高く掲げられる。

その教会には、ダビデという名の王と、エゼキエルにより象徴される預言者と、シロの覆滅におけるサムエルがいる。教会はまた、ヨセフにより象徴される祭司職も持つ。日曜法の試練の時とは、第七の封印によって象徴されているように、聖霊の火が限りなく注がれる時である。その火は、コラ、ダタン、アビラム、エリ、ホフニ、ピネハスとともに反逆した名のある者たち、そして1888年の反逆者たちを滅ぼす。

聖霊の注ぎによるその火こそが、勝利の教会のドラマの背景となっている。教会は、王ダビデ、預言者エゼキエル、祭司ヨセフによって表されている。その三人は、名だたる二百五十人を滅ぼす火の中に立っている。それはちょうど、ネブカドネツアルの火が、三人の忠実な者たちを炉に投げ込んだ者たちを滅ぼしたのと同じである。勝利の教会として、彼らが燃える炉に投げ込まれるのを全世界が見守るが、突如、神の子が、教会の預言者・祭司・王-シャデラク、メシャク、アベデネゴに代表される者たちとともに現れる。四人の三十歳の者たちが燃える炉の中におり、神性と人性が結び合わされると罪を犯さないという真理を示している！

コラ、ダタン、アビラムは、すなわちエリ、ホフニ、ピネハスでもあり、預言者・祭司・王から成る「勝利の教会」の偽物である。これら三者は、ギデオンの300人、ペンテコステの三千の魂、ミラー派の三百人の説教者、1843年の三百枚の図表であり、日曜法が到来し天から火が下るとき、彼らは三十歳である。エリヤの場合、火は真の預言者と偽の預言者を見分けるためのものであった。レビ記で「八日目」、すなわちアロンが奉仕を始めるときに下る火は、アロンの供え物を焼き尽くすが、その供え物はマラキ書3章の供え物であり、昔の年月のように喜ばしいものである。同じ火は、アロンの子ホフニとピネハスに代表されるように、異火や俗なる火をささげる者たちを滅ぼす。

神がエリヤを通して真の預言者を、またアロンを通して真の祭司を確証されるとき、その火はバルの偽預言者たちの死を招き、彼らはまたホフニとピネハスでもある。ホフニとピネハスはアロンの子らであり、彼らは日曜法のときに主の口から吐き出される契約の民の最後の世代である。

これらはホワイト姉妹の言葉ではなく、主の言葉であり、その使者があなたがたに伝えるようにと私に託されたものである。神は、あなたがたがもはや彼の御旨と食い違う働きをしないようにと呼びかけておられる。自らをキリスト者と称しながらサタンの特質を現し、霊と言葉と行いにおいて真理の前進を妨げ、確かにサタンが導く道をたどっている人々について、多くの教訓が与えられた。彼らは心のかたくなさのゆえに、本来彼らのものではまったくない、行使してはならない権威を握りしめている。大いなる教師は言われる、「わたしは覆す、覆す、覆す。」バトルクリークでは人々がこう言う、「主の宮、主の宮、私たちは主の宮だ。」しかし彼らは普通の火を用いている。彼らの心は神の恵みによって柔らげられ、従えられてはいない。Manuscript Releases, 第13巻, 222ページ。

「普通の火」とは、祭司職が始まったときにアロンの息子が用いたものである。数「81」は祭司職の象徴であり、レビ記8章1節には、祭司の清めと聖別の七日間が描かれている。彼らの衣は脱がされ、天の大祭司の衣に着替えさせられるが、これはゼカリヤ書3章のヨシュアと御使いの幻に示されているとおりである。ゼカリヤ書における「300」は「人々の驚きの的」として表されており、神がご自分の民の不義を取り除かれる時期、すなわ

ち教会が戦う教会から勝利の教会へと変えられる「日曜法」の時を歴史の中で表しているからである。七日間の聖別の後、八日目に奉仕を始めた。

あなたがたは、あなたがたの聖別の日々が終わるまで、七日の間、会見の天幕の入口から出てはならない。七日の間、彼があなたがたを聖別するからである。レビ記 8:33

八日目は、七に属する八番目、ラオデキヤがフィラデルフィアへと変わることに、ノアの箱舟の八人、割礼の八日目、そして復活の八日目を象徴している。その日は日曜法であり、教皇権の致命的な傷が癒される時である。その結果、それは復活し、七に属する八番目となる。

八日目になって、モーセはアロンとその子ら、またイスラエルの長老たちを呼び集めた。レビ記 9章1節。

八日目に、祭司たちは奉仕を始めたが、アロンの子らは「俗なる火」をささげた。アドベントリストたちは自分たちが主の宮であると主張し、ホワイト夫人はその主張を「俗なる火」だと見なした。それは偽りであるだけでなく、聖なる火と対照される「俗なる火」である。聖なる火とは「真夜中の叫び」のメッセージであり、俗なる火とは偽りの「平和と安全」というメッセージで、吠えることを拒み、警告のメッセージを与えることをしなかった「口のきけない犬」が最後に告げるメッセージとなる。第九章では、アロンが供え物をささげ、天から火が下ってその供え物を焼き尽くす。すると彼の邪悪な二人の息子が俗なる火をささげ、神の火が彼らを焼き尽くす。

そして、アロンは民に向かって手を上げ、彼らを祝福し、罪のいけにえと焼き尽くすいけにえと和解のいけにえをささげ終えて降りてきた。モーセとアロンは会見の天幕に入り、出てきて民を祝福した。すると、主の栄光がすべての民に現れた。主の前から火が出て、祭壇の上の焼き尽くすいけにえと脂肪を焼き尽くした。民はこれを見て叫び声を上げ、顔を地に伏せた。アロンの子ナダブとアビフは、それぞれ自分の香炉を取り、その中に火を入れ、その上に香を載せ、主が彼らに命じられなかった異火を主の前にささげた。すると主の前から火が出て彼らを焼き尽くし、彼らは主の前で死んだ。レビ記9:22-10:2

バトルクリークの男たちは、ラオデキヤへの真の証人のメッセージよりも自分たちの教会組織を信頼する、現代のサンヘドリンである。ラオデキヤへの真の証人はキリストであり、彼は決して変わらない。彼は常に、ご自分が選んだ人々を用いて、ラオデキヤの特徴を表している民にそのメッセージを伝えてこられた。日の下に新しいものは何もない。

彼は、イエスとそのいとこであるヨハネが訓練を受けたのと同じように、神によってのみ四十年間訓練されたモーセを選んだ。彼は、正規の教育制度の外で訓練された者たちの例として、モーセ、キリスト、そしてヨハネを選んだ。ナザレは、選ばれた者の象徴である。ちょうど、1888年のミネアポリスの反乱における新参の成り上がり者、ジョーンズとワグナーがそうであったように、ナザレは、選ばれた者の召しと聖別を表しているが、その選ばれた者は蔑まれている町の市民である。

ナタナエルは彼に言った。「ナザレから何か良いものが出るだろうか。」ピリポは彼に言う。「来て、見なさい。」ヨハネの福音書 1:46。

イザヤ書28章のどもる舌は、ナザレから来た者たちを表している。1831年にミラーのメッセージが公式化された後、そのメッセージは第二のわざわいの預言の成就によって力を与えられ、9/11における第三のわざわいの預言の成就を予表した。次の記事では第三のメシア的預言を取り上げる。

レビュー社の事務所が焼失する三夜前、私は言葉では言い表せない苦悶の中にあっただけで眠ることができなかった。私は部屋の中を歩き回り、神がその民にあわれみを注いでくださるよう祈った。すると私は、その機関の管理に当たっている人々とともに、レビュー社の事務所にいるかのように思えた。私は彼らに語りかけ、そうして彼らを助けようとしていた。権威ある者の一人が立ち上がって言った。「あなたがたは言う、『主の宮、主の宮、我らは主の宮である。それゆえ、これをし、あれをし、さらに他のこともする権威が我々にはある』と。しかし、神の言葉は、あなたがたがしようとしている多くのことを禁じている。」初臨のとき、キリストは宮を清めた。再臨に先立って、キリストは再び宮を清めるだろう。キリストはそこで宮を清めていた。なぜか。商業的な仕事が持ち込まれ、神が忘れられていたからである。ここでも急ぎ、あそこでも急ぎ、別のところでも急いでいて、天を思う暇がなかった。神の律法の原則が示され、「その律法をどれほど守ってきたのか」と問う声を私は聞いた。するとこう告げられた。「神は御怒りのうちに、ご自身の宮を清め、浄める。」

夜の幻の中で、バトルクリークの上に炎の剣が吊り下がっているのを見た。

兄弟たちよ、神は私たちに本気で臨んでおられます。私はお伝えしたいのです。これらの火災で与えられた警告の後でも、私たちの民の指導者たちが、これまでしてきたように自らを高ぶらせながらそのまま突き進むなら、神は次には彼らのからだをお取りになるでしょう。神が生きておられるのと同じ確かさで、神は彼らに、彼らが理解しないわけにはいかない言葉で語られます。

神は、私たちが幼子のように御前にへりくだるかどうかをご覧になっている。私が今これらの言葉を語るのは、私たちが謙遜と悔い砕かれた心をもって神のもとに来て、神が私たちに何を求めておられるかを知るためである。Publishing Ministry, 170, 171.

「今この時のメッセージは、『主の宮、主の宮、主の宮は私たちだ』ではない。尊い器として主に受け入れられるのは誰か——それは、キリストと共に働く者、真理を信じ、真理に生き、そのあらゆる面において真理を宣べ伝える者たちである。」Review and Herald, 1903年10月22日。

これらはホワイト姉妹の言葉ではなく、主の言葉であり、その使者があなたがたに伝えるようにと私に託されたものである。神は、あなたがたがもはや彼の御旨と食い違う働きをしないようにと呼びかけておられる。自らをキリスト者と称しながらサタンの特質を現し、霊と言葉と行いにおいて真理の前進を妨げ、確かにサタンが導く道をたどっている人々について、多くの教訓が与えられた。彼らは心のかたくなさのゆえに、本来彼らのものではまったくない、行使してはならない権威を握りしめている。大いなる教師は言われる、「わたしは覆す、覆す、覆す。」バトルクリークでは人々がこう言う、「主の宮、主の宮、私たちは主の宮だ。」しかし彼らは普通の火を用いている。彼らの心は神の恵みによって柔らげられ、従えられてはいない。Manuscript

Releases, 第13卷, 222ページ.